

技術資料

高齢者の動作特性を考慮した家具の開発

山本敏子^{*1} 水野全儀^{*2} 森本 健^{*2}

Furniture Development

:Dynamic Characteristics for Senior Citizens

Toshiko YAMAMOTO, Kaneyoshi MIZUNO and Ken MORIMOTO

今後増大が予想される、高齢者世帯のための家具開発を行った。高齢者の動作特性を知るため、引き出しモデルを使って上肢の「引く動作」を測定し、家具開発時の参考とした。

測定結果は、下段（56 cm）になるほど、引張力が低くなっていたが、最も引きやすい高さを聴取した結果は、中段（68 cm）と答えた者がほとんどで、上段（79 cm）がわずかあり、下段は無しであった。このことは、高齢者は力の大小よりも作業姿勢のしやすさの方を高く評価しているように見受けられる。

肘関節角度測定を行った結果からは、引く動作を行った場合、指先と肘には負担が掛かっているが、手首には負担を掛けていないということが分かった。このことは指先の動作は、手首を使うなどの代償的な動作を伴っていないことから、高齢になっても機能低下は進行していないものと考えられる。

収納家具のデザイン試作としては、上肢動作測定を踏まえて、パーソナルデスクタイプと食器棚タイプの2案を制作した。

高齢者は、物に掴まりながら動作を行うことが多いことから、掴まりバーを取り付け、車椅子に対応するため下部を解放型とし、使い勝手に配慮した。

*1 企画普及室

*2 応用技術部